



令和7年度 浜松市立北浜北小学校 学校だより

北心だより

令和7年10月2日 NO.8



学校教育目標

夢に向かって 輝き合う子

合言葉「自分から」

先日は、参観会及び懇談会への御参加ありがとうございました。授業に一生懸命取り組む姿が見られました。また、10月1日には、前期の通信票「のびゆく子」を配付しました。お子さんの頑張りを御家庭でも認めていただき、次につなげる機会としていただき、ぜひ温かい言葉かけをお願いいたします。

さて、いよいよ令和7年度も後半に差し掛かります。後半も、林間学校をはじめ、修学旅行、校外学習、持久走記録会、体験活動、50周年記念集会等、たくさんの学習活動が行われます。今後も、家庭と学校のとの連携を大切にしながら教育活動を行ってまいります。

令和7年度全国学力学習状況調査の結果を受けて

4月17日、6年生を対象に行われた令和7年度全国学力学習状況調査の結果が発表されました。なお、本年度は3年に一度行われる理科の調査も実施されました。

1 学力調査結果

〔令和7年度全国学力調査正答率〕

	国語（全国比）	算数（全国比）	理科（全国比）
本校	68.0 %(+1.2%)	60.0 %(+2.0%)	55.0 %(-2.1%)
静岡県	66.0 %	57.0 %	55.0 %
全国	66.8 %	58.0 %	57.1 %

2 教科ごとの傾向、分析と改善点

【国語】

〔全体の傾向〕

- 全体の正答率としては、全国・県を上回っている。
- 「知識・技能」を問う問題への正答率が特に高く、「我が国の言語文化に関する事項」の正答率は、全国・県平均を大きく上回っている。（正答率 89.6%、全国平均 81.2%）
- 「書くこと」は、全国・県平均に比べてやや低い。（正答率 69.0%、全国平均 69.5%）

〔主な正答率〕

○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くかどうかをみる

(正答率 89.6%)

○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えるかどうかをみる

(選択式：正答率 85.2%)

△目的に応じて、文章と図表などをむすびつけるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる

(選択式：正答率 33.9%)

〔分析と改善点〕

14 問中9. 5問正解しており、全体の平均では全国・県平均を上回っています。「知識・技能」の正答率が高いことから、これまでに学習した言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する内容は概ね定着していると言えます。しかしながら、「目的に応じて、文章と図表などをむすびつけるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題では、4つの資料を読み、それらの資料を基に答えるところでつまずきが見られました。

このことから、継続して学習内容の定着を図るとともに、学習したことを生かして複数の内容を関連付けながら、情報を整理したり、必要な情報を見付けたりする力を伸ばしていきたいと考えます。すでに様々な学習でタブレットを活用していますが、学習のねらいや目的に沿った情報を見付けたり、その情報を比べたりできるよう、学年の発達に応じて指導を継続していきます。

【算数】

〔全体の傾向〕

- ・全体の正答率としては、全国・県平均を上回っている。
- ・「数と計算」(正答率 65.5%)「データの利活用」(正答率 65.0%) 領域の問題では、正答率が高い。
- ・記述式の問題は、正答率が低い。(正答率 35.2%、全国平均 34.9%)

〔主な正答率〕

○伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる

(選択式：正答率 89.6%)

○ $1/2 + 1/3$ 異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる

(正答率 87.8%)

△ $3/4 \div 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ 、 $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

(正答率 20.0%)

△五角形を求めるために五角形を2つの図形に分割し、それぞれの図形面積の求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

(正答率 34.8%)

〔分析と改善点〕

16問中9.6問正解しており、全体の正答率は全国・県平均を上回っています。

分数の計算やグラフの内容を読み取って答える問題や短答式の問題の正答率が高い一方、記述式の問題では正答率が低くなっています。

③ (2) より抜粋

$3/4 + 2/3$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

基にする数を同じにすると、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $3/4$ はその数の何個分、 $2/3$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

正答：その数…1/12

$3/4$ はその数の9個分、 $2/3$ はその数の8個分(正答率 20.0%、全国正答率 23.0%)

上記のように複数の内容を問われている問題では、通分の意味を理解している回答が約半数見られました。通分であることは分かっている、問いに対して適切に答えるところでつまづいていました。分数計算の正答率が高いことから、計算力は定着しているものの計算の意味を正しく理解する力や、式や言葉で説明することに課題が見られます。

授業の中で、引き続き基礎基本の定着を図るとともに、計算の仕方を友達と説明し合いながら問題解決に取り組む活動を通して、多様な方法に触れながら計算の意味を理解したり、説明したりする力を付けていけるよう指導していきます。

【理科】

〔全体の傾向〕

- 全体の正答率としては、県平均と等しく、全国平均を下回っている。
- 「エネルギー」を柱とする領域の正答率は、全国・県の平均より高く(正答率 50.7%)、
「生命」を柱とする領域の正答率は低い。(正答率 41.5%)
- 記述式の問題は、正答率が低い。(正答率 33.5%、全国平均 45.2%)

〔主な正答率〕

○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることを知識が身に付いているかどうかをみる (正答率 80.0%)

○乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くするものを選ぶことができるかどうかをみる (選択式：正答率 63.5%)

△レタスの主旨の発芽条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる (正答率 11.3%)

△ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作が身に付いているかどうかをみる (選択式：正答率 31.3%)

〔分析と改善点〕

全体的な正答率は全国平均と比べて下回っていますが、「知識・技能」を問う問題の正答率は全国平均を上回っていることから、基礎基本の力は概ね定着していると考えられます。「思考・判断・表現」を問う問題へのつまずきが多く見られています。

「レタスの主旨の発芽条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる」問題では、資料から発芽条件を選んで記述していることはできていても、レタスの発芽に関して疑問を示す趣旨で記述するところでのつまずきが多く見られました。

このことから、引き続き基礎基本の定着を図るとともに、習得した知識や技能を活用していけるように繰り返し問題に取り組んでいきます。また、問題の意図に合わせて適切に答えることができるよう指導していきます。

3 児童質問紙より

	※ 解答番号 1、2（当てはまる、やや当てはまる）の割合	本校(%)	県(%)	全国(%)
1	朝食を毎日食べている。	99.2	94.6	93.7
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	83.6	81.6	81.9
3	学校での学習時間以外に、普段（月～金曜）1日当たり1時間以上勉強している。（塾や家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）	67.3	55.9	54.0
4	自分にはよいところがある。	93.1	87.9	86.9
5	先生はあなたのよいところを認めてくれる。	95.7	93.1	92.2
6	将来の夢や目標をもっている。	81.9	83.9	83.1
7	人が困っているときは、進んで助ける。	92.2	93.5	93.7
8	人の役に立つ人間になりたい。	96.6	96.6	96.4
9	学校に行くのは楽しい。	84.5	87.6	86.5
10	自分と違う意見について考えるのは楽しい。	81.9	77.9	78.2
11	友達関係に満足している。	96.6	92.2	91.7
12	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	94.9	97.4	97.2
13	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよく	93.1	93.7	93.0

	ある。			
14	学習した内容の分かった点や分からなかった点を次の学習につなげる。	73.2	78.6	79.4
15	先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。	87.1	87.2	87.4
16	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	85.3	81.4	81.3
17	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	83.6	82.0	82.3
18	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	76.7	80.2	80.3

〔分析と改善点〕

- 基本的な生活習慣については、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた児童が多く、御家庭での意識が高いことが分かります。
- 「学校での学習時間以外に、普段1日当たり1時間以上勉強している」と答えた児童は全国・県平均よりも高く（休日の勉強時間も同様の傾向）、家庭での学習習慣が身に付いている児童が多いことが分かります。しかし、全国調査の結果分析では、学校以外の勉強時間は令和3年度以降減少傾向にあります。家庭での学習習慣を継続していけるといいと思います。
- 「自分にはよいところがある」「先生はあなたのよいところを認めてくれる。」と答えた児童が非常に高い結果が出ています。学校や家庭生活の中で、自分のよさに気づき、自分を肯定できていると考えられます。
- 「人の役に立つ人間になりたい。」と答えた児童は96.6%と高いのに対し、「将来の夢や目標をもっている。」「人が困っているときは、進んで助ける。」は全国・県平均に比べて低い傾向にあります。役に立ちたいという気持ちはあっても、具体的な目標をもつことや、実際に行動を起こすことが難しいと考えている児童が多くいると考えられます。その都度自己を振り返り、経験を積ませていきたいと思います。
- 「友達関係に満足している。」と答えた児童は96.6%と多い結果でした。一方、「学校に行くのは楽しい。」「学習した内容の分かった点や分からなかった点を次の学習につなげる。」「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。」と答えた児童は全国・県平均に比べて低い傾向にあります。学校生活に対する満足度の低さは、学習で難しい課題に直面した時に、解決方法を自分で考えて取り組むことにつまずきがあるのではないかと考え

られます。

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」は、ほとんどの児童が「そう思う」「まあそう思う」と答えています。全国・県平均に比べると低い数値となっています。いじめは絶対にいけないことであることを継続して指導するとともに、学校が安全に過ごせる場になるような学級づくりに努めていきたいと思えます。
- 主体性と問う質問に対しては、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」「学習した内容の分かった点や分からなかった点を次の学習につなげる。」と答えた児童が7割程度に留まっています。「自分から」前向きに学ぶことや、自分の学習を振り返り、調整しながら学びを進めることに課題が見られました。

子供たちは、周りの人との関わりの中を通して自分のよさに気づき、人の役に立ちたいと考えて生活しています。しかし、実際に困った人がいたり難しい課題に直面したりした時に、自ら行動を起こして対応することが苦手であるようです。過去2年の回答も同様の表れをしていることから、北浜北小の児童の傾向であると考えられます。よい行いを称揚することを通して自信を付けさせていきます。

本校の合言葉である「自分から」考え行動する子を目指して、生活面、学習面や行事等への取り組みでは、目標を設定してそのために具体的に行動できるよう支援していきます。学習では、自己の学習を振り返り、次時の課題を明確にして自分に合った学習を自ら考えることができるようにしていきます。

今後も引き続き北浜北小の児童一人一人のよさを認め、伸ばしていけるよう指導していきます。